

生徒が動物との関わり方を見つめ直す高等学校公共の授業開発

～小単元「義務論と功利主義」を通して～

令和3年度入学

熊本大学大学院 教育学研究科

教職実践開発専攻 教科教育実践高度化コース

桑原 涼

実践報告書要旨

本研究の目的は、新設された公共における倫理分野の内容において、身近な人間以外の存在である動物との関わり方を見つめ直す授業の開発を行うことで、生徒の無自覚的な人間中心の功利主義の考えを自覚化させ、人間以外の存在との間で起きる様々な問題の解決に向けた考える力を育成することである。

第1章では、問題の所在について述べた。私たち人間は、人間の利益のために他の存在をないがしろにした利己的な振る舞いを無意識にしている場合がある。世界的に問題となっている環境問題や、動物などの他の存在との関わり方に関しての問題を解決していくためには、まず私たちがそのような人間中心の功利主義の立場で生きていることを自覚すること、そして他の存在の立場に立って物事を考えることが必要ではないだろうか。そのため、まずは動物という身近な人間以外の存在との関わりを考えることを通して、自身の生き方や在り方を振り返り、他の存在の視点を持つことで、それらとの間に起きる問題を解決していく力をつける必要があるのではないだろうか。

第2章では、生徒が動物との関わり方を見つめ直す高等学校公共の授業として、小単元「義務論と功利主義」の目標、単元構成及び具体的な授業の展開案について述べた。

第3章では、第2章で提示した授業を実際に実験授業として行ったことで明らかとなった、構成した授業の課題、課題を受けて再構成した小単元「義務論と功利主義」の単元構成及び具体的な授業の展開案、そして授業の評価方法について述べた。

第4章では研究の意義と課題について述べた。研究の意義は、倫理の思想を活用し、生徒がこれまでの生き方、在り方を反省しつつ、人間以外の存在の視点を持つことができる授業開発をおこなった点。課題は、義務論に関して生徒が誤った認識を持ってしまう点である。